

【研究室だより】

二〇一二年度の教学改革により、日本文学専攻と日本文化情報学専攻とからなる日本文学研究学域が発足した。この教学改革から四年が経ち、学域専攻制度の一期生が三月に卒業した。

さて、これまで四年間にわたる学域専攻制度の総括を踏まえ、今年度から新しいカリキュラムがスタートした。その目玉の一つが英語開講科目である。日本文学専攻では Modern Japanese Literary History and Culture I・II が、日本文化情報学専攻では Globalizing Japan and its translation I・II が開講された。二〇一七年度には、日本文化情報学専攻においても一科目、Contemporary Japanese society and its language I・II が開講される。

大学で英語による授業を行うことについては、種々の意見があるところである。とは言え、これらの科目を通して、日本文学・日本語学等の成果を英語でどのように表現し、伝えればよいのかを考え、意思疎通の道具としての英語力を学生が高めていくことを期待

したい。また、他言語で学ぶことによつて、母語で高等教育を受けることができることの意味を考え、日本語を見詰め直す機会にもしてもらえればと思う。

これ以外にもリテラシー入門Ⅱの廃止に伴い、新たに日本文献学入門を開講することとした。この科目では、日本文学専攻、日本文化情報学専攻における学びの共通基盤である「文献」に着目し、古代中国における紙發明以前の竹簡から、日本の紙による書写本・版本、現代の電子書籍に至る書誌学的テーマを概観することとしている。

これら新規開講科目だけでなく、従来からの開講科目についても、その内容を更に深化、拡充させて、日本文学専攻、日本文化情報学専攻、それぞれの特色を確立していきたいと考えている。もちろん、両専攻の教学内容は密接に関連している。今後も日本文学会等の場を活用して、両者を融合させ、発展させていくが必要である。

本年四月一日付けで、日本文学専攻

の助教として鳥木圭太氏が着任された。鳥木氏は、本学の卒業生であり、これまでも非常勤講師として日本文学研究学域、日本文学専攻の授業のほか、アカデミックライティングも御担当いただいていた。今後は、日本文学専攻の教学により深く関わっていただくのはもちろん、リテラシー入門をはじめとするライティング教育においても、その力を發揮していただきたい。

昨年九月二六日に、本学名誉教授の木村一信先生が逝去された。木村先生は、一九九〇年四月に本学に着任され、二〇一〇年の御退職まで近現代文学の講義を担当された。その間、二〇〇五年から御退職まで文学部長を務められた。御冥福をお祈りする。

(小椋秀樹)